
殺したのは誰？

日野五十鈴

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

殺したのは誰？

【Nコード】

N4751K

【作者名】

日野五十鈴

【あらすじ】

謎の転落死の究明に、ひとりの警察官が挑む！！

（前書き）

サクッと読める推理モノを目指しました。

さて、あなたは“真実”に気付けますかな…？
（ー）ニヤリ。

いさみ
勇が死んだ。

不幸な転落死だった。

享年、13歳と4ヶ月。

美しい5月の、最中だった。

「遺体のあつた場所から推測しますと、落ちたのは2階のベランダのようですねえ」

遊びに来ていた甥の惣一郎そういちろうは、そのんびりとした口調で上を見上げた。惣一郎は、警察官でもある。なんだか水。豊演じる杉。右京でも見てる心地だ。

「ちょっと、ベランダを拝見しても構わないですか？」

「ええ、いいわよ。ちょっと洗濯物が邪魔かもしれないけど」

「では、お言葉に甘えて」

惣一郎は妻に案内されてベランダへと向かった。

「いや、本当に洗濯物が…」

「このところ雨ばかりで、今日は束の間の晴れ間だっていうから…」

「なるほど…ん？」

惣一郎はベランダにある低めの手すりに手をかけると、なにか不思議なものでも見つけたかのような声をあげた。

俺はイライラして惣一郎に言っっちゃった。

「惣一郎！　いつまで勇を野晒しにしておく気だよ。事故死なんだろう？」

「いいえ」

惣一郎はキツパリと言った。

「勇ちゃんは事故死ではなく、…殺されたんです」

「ばっ、バカな！　誰かが侵入した形跡なんて、これっぽっちも」

「ええですから、犯人は外部犯ではなく、…あなたたちの中にいます」

「そんな…お、俺はやってないぞ！……。…まさか…」

ええ、と惣一郎は笑んだ。

「犯人は圭子^{けいこ}叔母さん、貴女です」

妻は文字通り目を丸くした。

「私が！？ だって、私はここで洗濯物を干していただけで」

「そうだつ！ それに、女の力で抗う勇を突き落とすなど…！」

「…失礼ですが智也^{ともや}叔父さん、ちょっとその手すりに向かっていただけですか？」

言われるままに、俺はベランダの手すりに向かった。

「叔父さん、もし貴方が何か落ととしたら、どうされます？」

「え？ そりゃあ、こうして…」

俺は体の半分以上を前に乗り出し、片足を軽く浮かせた。

「！？」

「そう…人ひとり分を落とすには、力はそんなに要らないでしょうねえ」

「な、なんの証拠があつて私を犯人だと言うつもりなの！？」

惣一郎は髪をかき揚げた。

「叔母さん、そのブラウスの袖を捲ってもらえますか」

「…っ、それは…」

妻は明らかなほどたじろいだ。

「おい何やってんだよ。このままじゃお前が犯人ってことになっちまうだろ」

そう言っただけで妻のブラウスの袖のボタンを外した。

「嫌っ！ 離して！」

「！！」

妻が嫌がる理由が分かった。

…何か、引っ掻かれたような痕…。

「叔父さんも俺も半袖なのに、叔母さんだけ袖を捲ってないというのは、不自然な気がしていたんです。そして…、この手すりに残った痕」

惣一郎は手すりにある引っ掻き傷を指差した。

「これはおそらく勇ちゃんが、最後の悪足掻きに引っ掻いた傷でしょうねえ。しかも叔母さんの腕に残る傷と照合すれば、おそらく一緒のものだと判明するでしょう」

「……………」

「それ以前に、勇ちゃんの爪に残った皮膚組織を調べれば、叔母さんのものと一致するでしょうが」

妻は崩れるように床に膝をついた。

「圭子…！　なんでだよ！？　なんでそんなこと…」

「…許せなかったのよ…」

妻はギリ、と歯をくいしばった。

「日頃の鬱憤を晴らすためとはいえ、私の大事にしている靴や洋服をボロボロにして…それだけならまだしも、勇は沙也加^{さやか}にまで怪我を負わせたのよ」

沙也加は俺たち夫婦の娘だった。

「許せなかった…なのに、あいつは何も悪いことなどしてないような顔で洗濯物を干す邪魔をしに来て…カッとなったときには、もう…」

「どのような理由であれ」

惣一郎は妻の肩を叩いた。

「動物を妄りに殺傷するのは立派な動物愛護法違反です」

アフガンハウンドの勇はピクリとも動かない。

妻の目から一滴一滴、涙がこぼれた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4751k/>

殺したのは誰？

2010年10月15日21時02分発行